

リスク敢行時のベネフィットがリスク認知に及ぼす影響

○森泉慎吾^{1, 2}・臼井伸之介¹

(¹大阪大学大学院人間科学研究科・²(独) 日本学術振興会)

キーワード：リスクテイキング，リスク認知，ベネフィット，ヒューリスティック

目 的

リスクテイキング（リスク状況下でのリスクの敢行）の影響要因としては、リスク認知やリスク敢行時のベネフィット（見返り）の認知がそれぞれ単独で議論されることが多い一方、Finucane et al. (2000) は、リスク認知とベネフィット認知はハザードに対する感情によって同時に影響を受けると指摘している（感情ヒューリスティック）。例えば、ハザードに「悪い」印象を持つとリスク認知が高まる一方、ベネフィット認知は低下するとされる。この知見に従えば、ある特定のリスクを認知する際、リスクにベネフィットが伴う場合の方がリスクのみの場合よりも、同じリスクであったとしても、ベネフィットが付加された分だけ印象が相対的に良くなり、リスク認知が低くなる可能性が仮定される。そこで本研究では、リスク敢行時に伴うベネフィットの有無がリスク認知に及ぼす影響について検討した。

方 法

参加者 株式会社楽天リサーチのモニター登録者のうち300名（男性150名，女性150名）であった。平均年齢は39.47歳（ $SD = 10.49$ ）であった。

リスク条件 2012年に発生した交通事故による損傷（警察庁，2013）を参考に、リスクレベルとして「全治3日の足の擦り傷」（リスク小条件），「全治15日のむちうち」（リスク中条件），「全治30日の足の骨折」（リスク大条件）の3種類を設定した。リスクの発生確率については、言語による確率推定の研究（e.g., 中村，2008）を基に、約20%にあたる「少しだけある」という表現を用いて操作した。

ベネフィット条件 リスク敢行に伴うベネフィットとして「好きなだけのお金」（金銭的）と「好きなだけの休暇」（時間的），「ベネフィットなし」の3水準を設定した。

デザイン リスク条件（小／中／大）×ベネフィット条件（なし／金銭／時間）の参加者内計画であった。

質問項目 リスク敢行に伴うベネフィットが伴う条件では、リスク条件として提示された怪我の可能性を許容できる最低の金額（休暇日数）に回答を求め（許容できない場合は回答欄に「0」を記入。分析からは除外），その状況でのリスクの認知として「（状況の）危険評価」，「リスクの主観的な発生見込み」，「被害の深刻さ」の3項目について、それぞれ10件法にて回答を求めた。「ベネフィットなし」条件では、各リスク条件でのリスク認知3項目のみに回答を求めた。

手続き 前述のリサーチ会社を通じて、2013年7月にweb調査で実施された。質問項目への回答時間は約20分であった。

結 果

分析対象158名に対して、ベネフィットの有無がリスク認知に及ぼす影響を検討するために、リスク条件、ベネフィット条件を独立変数、リスク認知3項目を従属変数としてそれぞれ2要因分散分析を行った。その結果、「危険評価」および「被害の深刻さ」についてリスク条件とベネフィット条件の交互作用が有意であった（順に、 $F(4, 628) = 2.44, p < .05, \eta^2 = .02$, $F(3.73, 584.89) = 4.87, p < .001, \eta^2 = .02$ ）。「危険評価」（Figure 1参照）について、リスク大条件にお

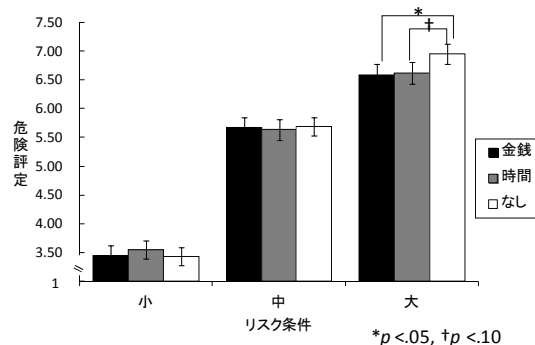


Figure 1 各条件における「危険評価」の平均値

いてベネフィットが無い場合よりも、金銭的，時間的ベネフィットがある場合に評価値が有意もしくは有意傾向で低かった（順に、 $p < .05, p < .10$ ）。「被害の深刻さ」についても同様の結果が有意に得られ、さらに、リスク中条件において時間的ベネフィットの場合の評価値が他の水準よりも有意に低かった（ $ps < .05$ ）。「リスクの主観的な発生見込み」については、リスク条件の主効果のみ有意であった（ $F(1.47, 231.08) = 39.18, p < .001, \eta^2 = .20$ ）。

考 察

本研究にてリスク状況下におけるベネフィットの有無がリスク認知に及ぼす影響を検討した結果、相対的にリスクが高い（ハザードに対して「悪い」印象をより感じている）際に、ベネフィットがある場合では無い場合よりも同一の怪我のリスクが低く見積もられた。換言すれば、あるリスク単体では「危険である」ことを認識していても、そのリスクの敢行に伴うベネフィットが伴う場合、リスク単体時と同程度に「危険である」とは思わなくなり、その結果、リスクテイキングに至る過程が示唆される。ただし、この現象は相対的にリスクが小さい条件で見られなかった。リスク認知とベネフィット認知は負の相関関係であるため（Finucane et al., 2000），ベネフィット認知はリスク小条件にて相対的に高く、ハザードへの印象は「良い」と予測される。この場合においても、感情ヒューリスティックの効果は見られるはずであり、本研究の結果は感情ヒューリスティックの従来の知見と一致していない。従って、今後は本研究にて言及できなかったベネフィット認知側面からの検討を行う必要がある。

引用文献

- Finucane et al. (2000) The Affect Heuristic in Judgments of Risks and Benefits *Journal of Behavioral Decision Making*, **13**, 1-17.
- 警察庁交通局 (2013) 平成24年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について 警察庁 2013.2.14 <<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001106841>> (2013.09.17)
- 中村國則 (2008) 「十分にありえる」方が「見込みがない」より有益な情報か？：言語確率の情報としての有益さとその情報理論的解釈 *認知科学* **15**(1), 174-187.
- (もりいずみ しんご, うすい しんのすけ)